

農業を大切に作る国にしたい

■農業は人権と結びつく

農業とはいったい何でしょうか。農業には稲作、畜産、林業もあり、さらには水産業も大きな意味では含まれています。山が荒れれば海の魚も採れなくなります。本来、農業、林業、水産業は一体のものなのです。

それでは、これらの仕事についている人達を日本の社会は大事にしているでしょうか。コンピューターなどの先端技術の仕事に携わる人達は収入も多く、冷暖房完備の快適な環境で仕事をしています。そうすると農・林・水産業よりも、それらの仕事の方が価値があるような錯覚をおこさないともかぎりません。

私は農業のことを考えるうえで人権の問題を考えることが必要であると考えています。人権という言葉を知るとむずかしいと考えがちですが、人権とは何でしょうか。人間は一人では生きていくことはできません。人間の社会には自分がいて自分とは異なる他の人がいます。自分を大事にしたいという気持ちと同じように、他の人の人格を認め尊重することが人との関係で基本になります。これが人権ということです。一言でいうならば、人権とは他者を思いやる心なのです。

ここで農業と人権が結びつきます。例えば水や空気が汚染されてしまうと人や生物は生きていくことができません。また作った農作物が安全でなくては人々の健康に害を与えます。水や空気を平気で汚し、健康をおびやかすような作物を作ったり売ったりすることは人権問題になります。人を思いやる心を持って農作物を作るという気持ちが大事なのです。

■知ることから始めよう

農業国であるフランスでは、自国が農業国であることを誇りに思い農業に従事している人達を大事にしています。日本の国民は、はたして自国の農業を誇りに思っているでしょうか。

日本の食糧自給率は四〇%といわれていますが、本当はもっと深刻な状況ではないかと思っています。農作物含めて七兆四〇〇億円分の食糧を外国から輸入しているのに対して、輸出しているのは三〇〇〇億円くらいです。

また、日本で使用されている木材の八五%が輸入、一五%が国内産となっています。七、八年前には、七〇%対三〇%だったのですが、急速に安い輸入材を使うようになっていきます。これらはすべて効率優先、利益優先の考え方から生じている問題です。

このような中で、日本がなぜ農業を軽視するようになったかということについて考えるようになりました。先ほど人権についてお話しましたが、人を思いやる心が人権だとすると、人権の基本には愛があります。それでは人間の愛とは何でしょうか。「愛というのは理解の別の名前」という言葉があります。本当の愛は相手を理解するところから生まれます。ですから農業を理解しなければ、農業を愛し農業を普及し啓蒙することはできないのです。農業の実態を理解してもらうことは農業への差別や偏見の解消にもつながります。

そのためには小学校の頃から人間が生きるために農業がいかに大事であるかということを知っていかなくてはならないと思います。ところが今、給食を食べる時も、で

きた料理だけを見て口にしています。正しく理解するためには、どのようにして食物が作られていくのかを知らなければなりません。まずどのようにして食材が作られるかを知り、できるなら自分でも作る作業をすることが大事です。

私も家族で市民農園の一区画を借りて、ささやかですが、季節に応じた野菜を作っています。農作業は実際にやってみると大変です。ぎらぎらとした太陽が照りつける暑いときに、作業するのは本当につらいものがありますが、実際に汗を流して仕事をしてみることでわかることがたくさんあります。

四年前に東京農業大学学長の進士五十八さんが、「天野さん、お百姓さんって言いますよね。百姓、百姓とばかりにしていることが多いけれど、この意味知っていますか？」と聞いてきました。みなさんは百姓という意味を知っていますか。私は本当に「目からウロコ」でした。進士さんはこのように言われました。

「お百姓さんといわれる農業をする人は、百の仕事をマスターしていなければできない。天野さん、あなたはいくつ仕事できますか。せいぜい三つか四つでしょ。農業というのは百の仕事をマスターしなくてはできないすばらしい仕事なんですよ」

考えてみたらそれはそうだと思います。自分が育てようとするとうもろこしやなす、トマトなどの作物について植える時期を知らなくてはならないし、気候のことも知らなければならぬし、土のことも知らなければならぬ。どのように育てるか、さらにはどのように売ることまで全部マスターしなければできない仕事なのです。お百姓さんというのは、胸をはってする仕事なのです。

■心のこもったモノを食べよう

私は静岡県茶業会議所の理事を務めています。お茶は以前、静岡県のドル箱であり、特に新茶がでたとき高く売れていました。しかし最近はお茶はかつてほど売れなくなっています。これはペットボトルのお茶の普及の影響が大きいようです。

お茶農家の人達も、売れるときはあまり工夫しなくても高く売れるので知恵をだしません。しかし売れなくなった時に、「困った。どうしよう」というのでは遅すぎるのです。

これからは他とは違う付加価値のあるものでなければ通用しません。例えば無農薬に挑戦し健康に良いお茶を作ったり、多品種少量で高い品質のものを作ったりすることが大事です。大量生産で大量消費という時代はもう終わりです。

日本人はカッコいいものに目が向きがちですが、これからは泥臭くてもこつこつ地道にやっていくことが評価される時代がきます。丹精込めて作られた気持ちのこもった農作物が求められる時代になるでしょう。消費者自身も日本国内で生産している物をどうしたら買い支えることができるのか、このことについて真剣に考えていくことが大事だと思います。

心のこもったモノを食べることが健康を作るための基本です。作った人の思いがこもった食べ物は必ず健康につながります。食べ物一つについて考えてみても、人と人の心がつながることが求められる時代に日本の社会は変わってきました。これからは一人ひとりの人間性を大事にする時代がきます。

■人と人とのコミュニケーションが求められている

私は毎朝、庭の水やりに一時間くらいかかります。手間はかかりますが、水をやると花が「おいしいお水をありがとう」って語りかけてくれるように感じ、気持ちがすがすがしくなります。

ぶどうなど実のなる植物も少し植えているので、季節ごとに実った果実が食卓をいろどります。その実を食べながら家族で会話を楽しまします。

時々隣の家からもキュウリなどのおすそ分けがあります。昔は両隣でおすそ分けをしたりしていましたが、そのようなコミュニケーションが今の日本にはなくなってきています。しかし、これからの時代は人と人の絆を結びあうことが求められています。

そのためには地域の人達や友達とのコミュニケーションをもっと親しく行い、お花や野菜を作りながら、農業、畜産業、林業、水産業を行っている人に感謝して生活していくことが大事になると思います。農業をすることの喜びを知っている人達が、胸を張って堂々と農業の話をするのが大事なのです。それができない国は滅んでいくのではないかと思います。

日本人が自分達の農作物を大事にして、コミュニケーションをしている国であれば他国からも尊敬され、そして他国の人々を尊重し尊敬するようになるでしょう。

多くの方々に農・林・水産業の大切さを認識し応援していただきたいと思います。そして日本が本当に良い国だとみんなが誇れるようになればよいと思います。

(八月二十八日・あさぎりのつどいにおける報告要約)